

# 高麗とドレミファ橋

主幹教諭 中村昌子

深緑の美しい気持ちのよい季節となりました。5月の連休明けから、大泉でも遠足ウィークがスタートし、1～3年生の遠足、そして4年生の富浦移動教室までが無事終了しました。新しい学年になって、昨年よりも少し成長した自分たちを実感する貴重な時間を過ごすことができましたようです。

さて、私は5月11日（金）、3年生の遠足に引率いたしました。3年生は西武池袋線の高麗駅たかすから歩いて、日和田山ひわだやまに登り、降りてきてから、今度は高麗川沿いの巾着田きんちやくでで遊びます。300m程の山ですが、急な男坂を助け合って登る3年生の子どもたちの姿はとても素敵でした。そして頂上では恒例となった「氷砂糖渡し」。頑張って登ってきた子どもたちにとって、氷砂糖の甘さが格別だったようで、帰りの電車の中や学校に帰ってからも「中村先生、氷砂糖おいしかったです！」と何度も繰り返していつてくれる姿が本当に可愛らしかったです。

さて、このあたりは奥武蔵の丘陵地帯で、全校遠足で出かける多峰主山たつのすやまや天覧山てんらんざんなども含めたハイキングコースになっており、家族でハイキングをした方もいらっしゃると思いますが、附属大泉小学校では長い関わりのある地でもあります。かつては高麗峠から高麗川にかけてのハイキングコースを1年生が遠足にきていました。2年生は現在3年生が登っている日和田山、さらにはその先の高指山たかさすやままで歩き通していました。また巾着田周辺でもお弁当を食べたり、遊んだりしました。「高麗」の名前が示すように、遙か昔、700年代に当時の朝鮮半島の「高句麗」から高麗人たちが移り住んできて、この地に「高麗郡」をおいたことが高麗の始まりです。海外とのつながりが今から1300年も前から始まっていたのですね。そして、高麗川の蛇行を利用し作った田んぼが巾着田です。川に囲まれて、山の上から見るとちょうど巾着の形のように見えることからこの名前がつけました。その高麗川にかかる橋がドレミファ橋です。



今は左の写真のように一つにつながっていますが、かつては右側の写真のように飛び石になっていました。渡る時に思わず「ド、レ、ミ…」といいたくなる橋だったことからこの名前がついたそうです。当時この橋を怖くて渡れない1年生がいて、渡るのに時間がかかりすぎて帰りの電車に乗り遅

れそうになってしまいました。最後は担任の先生が両脇に二人ずつ子どもを抱えて渡り、みんなで駅まで必死に走り、間一髪電車に間に合ったことも今ではなつかしい思い出です。今回は子どもたちが巾着田で遊んでいる間に一人でそっと思い出に浸ってきました。秋には彼岸花が美しく巾着田を彩ります。大泉の子どもたちが今も昔も親しんでいたこの高麗の地を一度ご家族でも訪れてみて下さい。